

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 水垂の里 (1階)		
所在地	静岡県掛川市水垂 126-1		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/?action=kouhyou_pref_top_index=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成25年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自立支援に力を入れて脱オムツを目指した取り組みを行っている。 水分の大切さの研修を行い水分摂取による認知症改善に取り組んでいる。 レクリエーションに力を入れてADLの向上を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>バイパス西郷インターと、掛川駅のちょうど真ん中に位置し、掛川城や市役所からも数キロの、利便性の高い場所に事業所はあります。事業所の祭りではクーポン券を配り、200名余りの参加者がありました。地域の行事情報も回覧板で得ており、盆踊りに参加させてもらうなど、双方向の交流がわずか1年余りで叶っています。開設当初から、事業所の敷地内に備蓄倉庫など、地域の社会資源を備えたことが功奏してします。「その人に添う」ことは職員の念頭に常にあり、多くの改善向上事例を産んでいます。例えば、水分をきちんと摂取してもらうことで、オムツから布パン+パットに変更できたり、職員の話し合いで眠剤を使わない睡眠導入を検討するなど、認知症の症状好転にもつながっています。管理者をはじめ職員意識が高いことから、今後の展開が大いに期待されます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に勉強会にて理念の勉強しそれを基に実践に生かしていく努力をしている。	事業所開設時に理念について研修の機会をもち、また掲示もして共有につなげています。ただし、まだ発展途上であり、実践について目に見えるところまでには至っていません。	個人目標を理念と絡めるなど、実践度合いが客観的にわかるよう工夫されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の人に恵まれていて地域活動の参加などもさせて頂いている。良好な関係だと思う。	事業所の祭りではクーポン券を配り、200名程度の参加者がありました。また、地域の行事情報も回覧板で得ており、盆踊りに参加させてもらうなど、双方向の交流がわずか1年で叶っています。開設当初から、事業所の敷地内に備蓄倉庫など、地域の社会資源を備えたことが功奏しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部に発信することはあまり行えていない。今後、落ち着いた段階で行っていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族様の意見を聞きながら業務に活かしている。また、家族様から行事の協力の申し出などもありとても大事な場として行っている。	開設して間もない事業所ですが、隔月開催が実現できています。家族も半分くらいの参加がみられ、盛況に推進しています。行政、地域からの参加が少ないため、やや家族会の様相となっています。	運営推進会議のねらいや目標を事業所として明確にし、それに沿っていなければ変革を試みることも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	なかなか運営推進会議に参加出来ず、話し合いがあまり出来ていない現状である。	運営推進会議には市職員が1度参加くださいましたが、地域包括支援センターからは参加が得られず、また事業所側も法人本部が行政とのやりとりを取りまとめていることもあり、事業所単位の関係構築は進んでいません。	地域包括支援センターには一度挨拶に出向き、関係の第一歩を築くことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠などわせず、身体拘束0宣言している。研修などにも参加し、それを他の職員にも会議で伝え、職員一体となって取り組んでいる。	県の研修会にも参加し、内部研修で共有化させていて、施錠をすると不穩になる、といった基本的な視点は各職員に周知されています。近所のコンビニエンスストアも「何かあれば連絡するよ」と、協力的です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間でのコミュニケーションを大事にして、虐待に至る前に ストレスなどを感じ取り防止できるように取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まだしっかりと知識が不足しているため、今後、勉強していく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、ケアマネを中心にしっかりと説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など職員から積極的にコミュニケーションを取り意見を聞きながら日々の業務に活かしている。	真新しいということもあり、長く居たくなる空間であることも功を奏し、家族の訪問が頻回にあります。請求書と一緒にイベントの写真と同封し、日頃の様子を伝える努力もおこなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見の出やすい職場作りに努めている。	職場での問題は私的に話さないよう、その時その場で話し合うよう指導しています。主任と職員との個人面談は月1回のペースでおこなわれています。また、プライベートなことも管理者に相談が入るとのことから、信頼関係が構築されていることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努力しているが満足しているかは判断できない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などに多く参加出来ている。会社に感謝したい。これからも、より多くの研修に参加出来るようにしていきたい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで同業者と出会う場を大事にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設長、ケアマネを中心に 施設の方針を伝え、本人様の希望を聞き、良好な関係が築けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設長、ケアマネを中心に、しっかりと聞き込み調査を行い、家族様と協力関係を作りながら施設を利用してもらうような働きかけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴など、しっかり聞き取りし、必要なことを理解できるよう努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そうじ 洗濯など、利用者様を中心に行い、『一緒に暮らしている』と感じてもらおう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関係を大事にし、連絡を取り合うことが出来ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設として無くすということはない。利用者様の希望に出来る限り添えるように努めている。	友人の訪問もあり、また家族と連れだつての入所の利用者もいます。飲酒を望む利用者には、医師とも相談し、段階を踏んで取り組む予定でいます。趣味の道具を自宅から持ち込み、楽しんでいる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションなどを通じて、職員が間に入りながら利用者様同士も仲良くできるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様から聞きたいことやアドバイスを求められた時も、しっかりと向き合いコミュニケーション摂れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えを聞いて、希望にかなえられることが出来るように努力している。	発語や筆談が難しい場合でも、ゆっくりと時間をかけることで、小さなことも拾い集めている職員の日頃の努力を管理者は受けとめています。"待つ、姿勢が大切、という気持ちで毎日取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族様からの聞き込みなどを大事にして、これまでの生活を把握できるように努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る限り利用者様に寄り添い、本人の事を理解できるよう努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネとのカンファレンスで意見を多くだし本人に何が必要か？を考えながら計画している。	担当制を敷いていて、ケアマネージャーと2人3脚でカンファレンスをおこなっていますが、行動障害などについては全職員で話し合う機会を設け、総意の取組をおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や連絡ノートを利用し、職員間で共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様に喜んでもらえることを考えながらその日出勤の職員同士話し合いながら取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々、利用者様に出来る限り希望に添えるような形で支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とも連絡を取り合い良い関係を作るように努力している。	在宅の頃からのかかりつけ医を継続していて、受診は原則家族におこなってもらいます。月1度、訪問歯科があり、職員にも口腔ケアを指導してくださるなど日常的なケアにつながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	NSともCWからの情報を伝え 個々の利用者様に何が必要か?と話し合えてきている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリや退院サマリで情報交換するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設として出来る限りのことは行う。 かかりつけ医の協力が得られるか?など家族と話し合い どうしていくのかを一緒に考えていく。	家族とは救急対応について合意形成できていますが、看とりについて未だ話し合いが成されていません。また、事業所としても看護師が常駐していない環境下で取り組むことに躊躇があることは否めません。家族の意向確認や職員教育など、これからの課題としています。	本部の研修センターにおいて該当プログラムを推進くださることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルの確認をしてどのような対応をすればよいか話し合うことが出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と連携し協力出来ている。 避難訓練も定期的に行っている。	敷地内に地域の備蓄防災倉庫が置かれていて、事業所設立時から地域と防災における連携が築かれています。2回の訓練のうち、1回は消防署の指導を直接受けていますが、2度とも想定が昼間だったため、次回は夜間想定を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	気を付けている 勉強会などで、よりしっかりとした対応ができるように努めていく。	入社時に法人の研修センターで基本原則を徹底して学んでいて、マナーが担保されています。また、毎月のユニット会議でも議題にあげ、意識の継続に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを取りながら出来る限り希望に添えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いをすることなく 本人のペースに合わせて行うように出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	汚れたらすぐに着替えを行う。 洗顔の援助などをおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	準備を手伝ってもらったり味付けを変えてみたりしながら楽しんでもらえるようにしている。	業者から届く食材を職員が手作り調理しています。献立は業者の栄養士がたてていますが、オムライスにケチャップで名前を描くなど、職員のちょっとしたアイデアで楽しみを付加させています。またおやつには、お団子やお汁粉など、利用者の好みを反映させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表作成ししっかりと摂取してもらえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ0を目指し行っている。 利用者様の行動や表情を観察し、チェックできるように努力している。	自立の2ヶ所を含みユニット内に4つのトイレがあることで、すみやかな対応ができていることが視えます。サインを見逃さず、スムーズな誘導に努めていて、「全員が布パンツ」を合言葉に向上を目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬をなるべく使わずに水分や運動で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人が入りたいときに入ることが出来るように支援している。 午前入浴はほとんど行っていない。	週3日以上の入浴をめやすとしています。湯船に入れない利用者にも、2人介助の対応など工夫を施行し、笑顔の入浴につなげた例もあります。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じてもらえる入浴にも心遣いしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠できるよう、日中の行動からリズムが作れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や気を付けた方がいいことなどを職員間で話し合い、確認するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	そうじや洗濯などを利用者様中心となり行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族様と話し合い、出来る限り希望を叶えることが出来るように努めている。	近くにある徳育センターまでの散歩が慣習となっていて、週2回程度ドライブもおこなっています。御前崎へイルミネーションを見にでかけたときは、利用者の笑顔が溢れ、職員も充実した1日になったとのこと。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ち込みはおこなっていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に協力してもらいながら、行うことが出来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	いつも清潔にしておくように努めている。	掃除は朝できなければ、その日のうちに利用者と一緒にこなうようにして、手すりも毎日除菌水で拭いており、非常に清潔です。光の調整はすだれやカーテンをつかっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所など制限することなく自由に行動できるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設側が決められたものを用意するのではなく、今まで使用していたものを持って来てもらい居室内は自由に整えてもらっている。	エアコン、カーテン、ロッカーの備え付けがあり、ほかは持ち込みですが、ベッドはリースの人もいます。仏壇や背負子、リクライニングチェアなど使い慣れたもののほか、書道など趣味の道具が目を惹きます。クッションマットを使い、ふとん敷きの人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援に力を入れて利用者様の出来るこちを活かす支援方法で行っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297400042		
法人名	株式会社 ブレインシステム		
事業所名	グループホーム 水垂の里 (2階)		
所在地	静岡県掛川市水垂 126-1		
自己評価作成日	平成25年1月1日	評価結果市町村受理日	平成25年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [tp://www.kaigokensaku.jp/22/?action=kouhyou_pref_top_index=tr](http://www.kaigokensaku.jp/22/?action=kouhyou_pref_top_index=tr)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階		
訪問調査日	平成25年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援に力を入れている。おむつ廃止に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

バイパス西郷インターと、掛川駅のちょうど真ん中に位置し、掛川城や市役所からも数キロの、利便性の高い場所に事業所はあります。事業所の祭りではクーポン券を配り、200名余りの参加者がありました。地域の行事情報も回覧板で得ており、盆踊りに参加させてもらうなど、双方向の交流がわずか1年余りで叶っています。開設当初から、事業所の敷地内に備蓄倉庫など、地域の社会資源を備えたことが功奏してします。「その人に添う」ことは職員の念頭に常にあり、多くの改善向上事例を産んでいます。例えば、水分をきちんと摂取してもらうことで、オムツから布パンパットに変更できたり、職員の話し合いで眠剤を使わない睡眠導入を検討するなど、認知症の症状好転にもつながっています。管理者をはじめ職員意識が高いことから、今後の展開が大いに期待されます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前の職員研修を通し、理念を共有し、ユニット会議にて理念の読み合わせをしている。	事業所開設時に理念について研修の機会をもち、また掲示もして共有につなげています。ただし、まだ発展途上であり、実践ついて目に見えるところまでには至っていません。	個人目標を理念と絡めるなど、実践度合いが客観的にわかるよう工夫されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加させていただいている。地区の一員に入れていただいている。	事業所の祭りではクーポン券を配り、200名程度の参加者がありました。また、地域の行事情報も回覧板で得ており、盆踊りに参加させてもらうなど、双方向の交流がわずか1年で叶っています。開設当初から、事業所の敷地内に備蓄倉庫など、地域の社会資源を備えたことが功奏しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修センターの開放し、敷地内に地域の方々が出入りしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各月に会議を行い、報告、話し合いをし意見交換して理解を得ている。	開設して間もない事業所ですが、隔月開催が実現できています。家族も半分くらいの参加がみられ、盛況に推進しています。行政、地域からの参加が少ないため、やや家族会の様相となっています。	運営推進会議のねらいや目標を事業所として明確にし、それに沿ってなければ変革を試みることも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所連絡会に参加している。	運営推進会議には市職員が1度参加くださいましたが、地域包括支援センターからは参加が得られず、また事業所側も法人本部が行政とのやりとりを取りまとめていることもあり、事業所単位の関係構築は進んでいません。	地域包括支援センターには一度挨拶に出向き、関係の第一歩を築くことを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言をしている。玄関の施錠はしていない。	県の研修会にも参加し、内部研修で共有化させていて、施錠をすると不穩になる、といった基本的な視点は各職員に周知されています。近所のコンビニエンスストアも「何かあれば連絡するよ」と、協力的です。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の変化、身体の観察等注意を払っている。勉強会に参加し報告をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長とケアマネが勉強会に参加している。主任は次回参加予定。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、ケアマネ、看護師が行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見を聞き、ご要望に添うように努めている。	真新しいということもあり、長く居たくなる空間であることも功を奏し、家族の訪問が頻回にあります。請求書と一緒にイベントの写真を同封し、日頃の様子を伝える努力もおこなっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	努力している。	職場での問題は私的に話さないよう、その時その場で話し合うよう指導しています。主任と職員との個人面談は月1回のペースでおこなわれています。また、プライベートなことも管理者に相談が入るとのことから、信頼関係が構築されていることが覗えます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいを無くさないよう常に向上心を持てるようにチームで話し合いをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護スキルアップ研修会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会を持てるように努力する。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていることや要望に耳を傾け、安心して生活できるよう、本人との信頼関係づくりに努めている。 日々の生活の中でニーズを探している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時などに要望に耳を傾けサービスにつなげるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴を聞き取りをして今必要なことをサービス利用につなげている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つの家族として暮らしを共にできる関係を築いている。 利用者一人ひとりに役割を持って生活していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との関係を大事に連絡を取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望や本人の状態に応じ支援している。	友人の訪問もあり、また家族と連れだつての入所の利用者もいます。飲酒を望む利用者には、医師とも相談し、段階を踏んで取り組む予定でいます。趣味の道具を自宅から持ち込み、楽しんでいる人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士の関わり合いを止める事無く助け合えるよう支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	御家族様から悩み相談をいただきアドバイスをさせていただいて関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人ひとりの思いや希望を把握し、その人らしい生活ができるよう努めている。	発語や筆談が難しい場合でも、ゆっくりと時間をかけることで、小さなことも拾い集めている職員の日頃の努力を管理者は受けとめています。"待つ、姿勢が大切、という気持ちで毎日取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らしを家族から情報を集め把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日一日の心身の状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファを行い、利用者担当職員を中心に話し合いをし計画を作成している。	担当制を敷いていて、ケアマネージャーと2人3脚でカンファレンスをおこなっていますが、行動障害などについては全職員で話し合う機会を設け、総意の取組をおこなっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子等、利用者に関わる事はすべて記録している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の笑顔をいただけるようにそれぞれのニーズに対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の力を発揮できるよう安全で豊かな暮らしができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常に連絡を取りあえるように努力している。	在宅の頃からのかかりつけ医を継続していて、受診は原則家族におこなってもらいます。月1度、訪問歯科があり、職員にも口腔ケアを指導してくださるなど日常的なケアにつながっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気付いたことはすぐに相談し適切な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリ出している。 退院時、サマリーを受け取り情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明している。	家族とは救急対応について合意形成できていますが、看とりについて未だ話し合いが成されていません。また、事業所としても看護師が常駐していない環境下で取り組むことに躊躇があることは否めません。家族の意向確認や職員教育など、これからの課題としています。	本部の研修センターにおいて該当プログラムを推進くださることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルにて職員の周知徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行っている。 地域と連携し協力している。	敷地内に地域の備蓄防災倉庫が置かれていて、事業所設立時から地域と防災における連携が築かれています。2回の訓練のうち、1回は消防署の指導を直接受けていますが、2度とも想定が昼間だったため、次回は夜間想定を予定しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格を理解し尊重し、言葉かけや対応をしている。	入社時に法人の研修センターで基本原則を徹底して学んでいて、マナーが担保されています。また、毎月のユニット会議でも議題にあげ、意識の継続に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞き取り、その希望に答えるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりの生活リズムを理解し1人ひとりのペースで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に服を用意してもらい、その人に合った身だしなみをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調に合わせ、一緒に準備や片付けをしている。	業者から届く食材を職員が手作り調理しています。献立は業者の栄養士がたてていますが、オムライスにケチャップで名前を描くなど、職員のちょっとしたアイデアで楽しみを付加させています。またおやつには、お団子やお汁粉など、利用者の好みを反映させています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量を把握し、状態に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。 歯科往診にて、ケアの指導を受けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は布パンツ、パット対応とし、おむつ廃止に取り組んでいる。 1人ひとりの排泄パターンを探っている。	自立の2ヶ所を含みユニット内に4つのトイレがあることで、すみやかな対応ができていることが視えます。サインを見逃さず、スムーズな誘導に努めていて、「全員が布パンツ」を合言葉に向上を目指しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人ひとりの水分摂取量の把握、確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	なるべく希望に合わせて入浴している。 入浴剤の使用等、リラックスできる空間を作っている。	週3日以上の入浴をめやすとしています。湯船に入れない利用者に、2人介助の対応など工夫を施行し、笑顔の入浴につなげた例もあります。ゆず湯やしょうぶ湯など季節を感じてもらえる入浴にも心遣いしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとりの生活リズムを把握し、足浴や湯たんぽ等、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が用法や副作用について理解しているわけではない。 症状の変化等、気が付いたところはドクターに相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりの生活歴などを理解し、好きな事や楽しみを見つけだしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物に出かけ、気分転換できるよう支援している。 ドライブに出かけている。	近くにある徳育センターまでの散歩が慣習となっていて、週2回程度ドライブもおこなっています。御前崎へイルミネーションを見にでかけたときは、利用者の笑顔が溢れ、職員も充実した1日になったとのこと。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の持ち込みはしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月お手紙にて近況報告をしている。 電話したいという訴えがある時は、すぐ電話できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節感を取り入れた壁画を作っている。	掃除は朝できなければ、その日のうちに利用者と一緒にこなうようにしていて、手すりも毎日除菌水で拭いており、非常に清潔です。光の調整はすだれやカーテンをつかっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの気持ちに添い、ソファで過ごしたり食席で過ごしたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を用意していただき、自分の部屋だと認識できるようにしている。	エアコン、カーテン、ロッカーの備え付けがあり、ほかは持ち込みですが、ベッドはリースの人もいます。仏壇や背負子、リクライニングチェアなど使い慣れたもののほか、書道など趣味の道具が目を惹きます。クッションマットを使い、ふとん敷きの人もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所、居室の場所が分かるように名札をつけている。		